

地方独立行政法人大阪産業技術研究所
令和 7 事業年度の業務実績に関する評価結果
(案)

令和 8 年 月

大 阪 府

大 阪 市

目 次

1 地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方	1 ページ
2 全体評価	2 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
＜全体評価に当たって考慮した事項＞	
① 法人の基本的な目標	
② 令和7事業年度における重点的な取組	
③ 特筆すべき取組	
④ 課題	
(2) 評価に当たっての意見、指摘等	
3 大項目評価	
3-1-1	
「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）	5 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-2	
「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進等）	7 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-3	
「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援）	9 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価に当たっての意見、指摘等	
3-2「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目	12 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価に当たっての意見、指摘等	
3-3「財務内容の改善」及び	
3-4「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目	14 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価に当たっての意見、指摘等	

1 地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方

知事は、地方独立行政法人大阪産業技術研究所について、「地方独立行政法人大阪産業技術研究所にかかる評価の考え方について」（平成30年6月15日施行）に基づき、大阪市長と協議の上、次のとおり令和7事業年度の業務実績に関する評価を行った。

（評価の基本方針）

年度計画及び中期計画の進捗状況等を数値目標の達成状況、具体的な事例等で評価し、組織・業務等に関する改善すべき点や府市法人の統合によって可能となる取組等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上及び法人がめざす「スーパー公設試」の取組等に資することとする。

（評価の方法）

事業年度評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、中期計画及び年度計画に基づく小項目・大項目により、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する事実確認や法人からのヒアリングなどを通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証と評価を行う。

「全体評価」では、項目別評価の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②知事による小項目評価、③知事による大項目評価の手順で行う。

① 法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとに、Ⅰ～Ⅴの5段階で自己評価を行う。

② 知事小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにⅠ～Ⅴの5段階による評価を行う。

③ 知事大項目評価

知事における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

知事において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和7事業年度の業務実績に関する評価について、5ページ以降に示す「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」（1～3）、「業務運営の改善及び効率化」及び「財務内容の改善・その他業務運営に関する重要事項」の5つの大項目いずれもA評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 特に、以下の取組を評価した。
 - ① 高い利用満足度を維持しつつ、「BEV車体フレームギガキャストの高生産性を実現する高冷却・耐熱疲労金型を主ターゲットとする金属積層造形システムの研究開発」といった時代のニーズに対応した先進的分野・テーマに関して、国家的プロジェクトに参画し研究開発を推進した。また、企業ニーズを踏まえた技術者研修の実施など人材育成支援にも積極的に取り組んだ。さらに、大阪・関西万博において企業との共同研究成果等を発信し、技術支援のプレゼンス向上を図るなど、府市施策と連動した取組や利用拡大に向けた様々な取組を展開し、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する計画を着実に実施した。
 - ② 事業収入の確保、財務基盤の強化及び効率的な予算執行等に計画的に取り組むなど、「財務内容の改善」や「その他業務運営に関する重要事項」等に関する計画を着実に実施した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、3ページ以降に示す法人の基本的な目標、重点的な取組等を総合的に考慮し、全体評価は「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」とした。
- なお、法人の取組について、次の意見を付記する。

技術支援の基盤となる研究力及び技術力の向上に資する研究開発や産業人材育成の推進に積極的に取り組むとともに、「3D造形技術イノベーションセンター」や「先進電子材料評価センター」など、大阪産業技術研究所が有するノウハウを活用し、技術相談、依頼試験、企業支援研究等を通じて、多様化・高度化する企業ニーズに対応した技術支援を展開している点を高く評価する。

引き続き、和泉及び森之宮センターが保有する優れた技術力等の強みを活かし、企業の付加価値向上に資する伴走型支援を推進し、ものづくり中小企業への支援サービスの一層の向上に取り組まれることを期待する。

	1	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上 (5～11ページ)	2	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
	3	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
	4	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
業務運営の改善及び 効率化 (12～13ページ)	4	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
財務内容の改善・ その他業務運営に関 する重要事項 (14～15ページ)	5	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり

法人の基本的な目標、令和7事業年度の重点的な取組等を総合的に勘案

＜全体評価の評価結果＞

「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

＜全体評価に当たって考慮した事項＞

① **法人の基本的な目標**

- ・和泉及び森之宮センターの強みを活かし、得意分野に応じた研究開発から製造までの一気通貫の支援や利用サービスのワンストップ化等によるサービス向上に取り組み、多様化・高度化する技術課題への対応や、成長産業分野への参入及び海外展開に取り組むものづくり中小企業を積極的に支援する。
- ・両センターのネットワークと優れた技術力を融合し、産官学連携によるオープンイノベーションの推進、成長分野や時代のニーズに対応した戦略的研究開発、国際基準への対応及び企業が求める技術者の育成支援に取り組むことにより、企業の成長・発展に貢献する。あわせて、技術支援及び研究開発のポテンシャルを高め、大阪産業の成長を牽引する知と技術の支援拠点“スーパー公設試”をめざす。
- ・顧客満足度の向上に取り組むとともに、顧客の拡大や効率的な業務運営により得られた収益を更なる支援に投資し、企業へ還元する好循環の創出に向けた運営を推進する。

② **令和7事業年度における重点的な取組**

- ・「3D造形技術イノベーションセンター」及び「先進電子材料評価センター」における企業支援研究の実施
- ・BEV車体フレームギガキャストの高生産性を実現する高冷却・耐熱疲労金型を主ターゲットとする金属積層造形システムの研究開発
- ・脱炭素化に貢献する金属接合技術の開発
- ・脱炭素に向けたバイオマスガス化発電技術の開発
- ・資源循環の実現に向けた機能集積型バイオベースポリマーの創製・分解・ケミカルリサイクルに関する研究
- ・森林由来のリグニン系新素材及びその樹脂組成物の大規模製造に向けた技術実証
- ・安全性に優れた高エネルギー密度全固体電池用材料の開発
- ・金属3D造形に関する技術者育成事業の実施
- ・大阪府市との連携
- ・広域連携の着実な推進

③ **特筆すべき取組**（全体評価（1）「評価結果と判断理由」の記載内容を除く）

- ・利用者アンケート等の要望を踏まえた「予約申込連絡システム」の構築
- ・スマート公設試の実現に向けた研究所外からのリモート操作が可能な装置使用の拡充
- ・おおさかグリーンTECHコンソーシアム事業における産学官連携の推進
- ・MOBIOイノベーションセンターの開設

- ・関西広域産業共創プラットフォーム事業を通じた技術相談の対応及び域内公設試との連携の推進
- ・管理・企画部門を法人経営本部に一元化する組織改編に向けた調整による、本部マネジメント体制の強化
- ・Webからの技術相談問い合わせフォームの一元化等、支援業務サービスのワンストップ化の更なる推進
- ・健康経営優良法人2026の認定

④ 課題

- ・知的財産の出願及び秘匿化の推進に係る取組

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 幅広い企業ニーズに対応しつつ、万博関連事業を推進するとともに、重点研究分野の研究（プロジェクト研究）や競争的研究費を獲得した研究をはじめとする研究開発の推進に着実に取り組んだ点を高く評価する。
- オーダーメイド研修及びレディメイド研修、並びに業界団体と連携したセミナーなど、企業ニーズに応じた多様な研修を実施し、産業を支える人材育成に貢献した点を高く評価する。
- 企業への技術移転等を見据えて取り組む「知的財産の出願・秘匿化件数」については、中期目標期間における目標達成に向けて、引き続き課題の分析等を行うとともに、必要な措置について検討を進められたい。

3 大項目評価

3-1-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（１）「中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援」

（１） 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

来所、電話、インターネット等の多様な手法により技術相談に対応し、企業の課題解決に取り組んだ結果、数値目標である「利用満足度」は目標値を上回った。また、アンケートで要望が多かった機器・設備のWeb予約に対応するため「予約申込連絡システム」を構築するなど、利用満足度の維持・向上に向けた取組を積極的に推進しており、「多様な企業ニーズに応える技術相談の充実」については年度計画を上回って実施していると判断した。

数値目標である「企業支援研究実施件数」は目標値を下回ったものの、前年度から増加しているほか、外部資金を活用した共同研究にも取り組み、企業の技術開発支援を推進した。さらに、「3D造形技術イノベーションセンター」において蓄積したシーズやノウハウを活用し、国の大型研究開発プロジェクト「BEV車体フレームギガキャストの高生産性を実現する高冷却・耐熱疲労金型を主ターゲットとする金属積層造形システムの研究開発」に参画するなど、企業単独では解決が困難な高度な技術課題の解決に取り組んでいる。これらの点を踏まえ、「多様な企業ニーズに応える企業支援研究の推進」については年度計画どおり実施していると判断した。

以上、1項目が計画を上回り、他の4項目についても計画を順調に実施し、中期計画の達成に向けて着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

＜小項目評価の集計結果＞

5項目全てが小項目評価のⅣ又はⅢに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
		計画を大幅 に上回って 実施している	計画を上回 って実施し ている	計画を順調 に実施して いる	計画を十分 に実施でき ていない	計画を大幅 に下回って いる
中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援（1～5）	5	0	1	4	0	0
合計	5	0	1	4	0	0

＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

○ 多様な企業ニーズに応える技術相談の充実（１）【Ⅳ】

- より多くの顧客ニーズを把握するため、直近１年間に研究所を利用した顧客を対象に、Webアンケートによる「ご利用に関する調査」を実施した。調査期間は１月27日～２月16日の21日間で、対象者3,869名のうち1,524名から回答を得た。期間中に効果的にリマインドを行った結果、回答率は39.4%と高い水準となった。利用満足度は目標値を上回る97.2%であった。
- Webアンケートでは、一部の設問において選択肢に加え自由記述欄を設け、利用者の意見や要望等を把握した。これらの結果については所内の関係部署に共有し、運営改善に向けた検討材料とした。
- 利用者アンケート等で要望が多かった機器・設備のWeb予約に対応するため、空き状況の確認から予約申込までをWeb上で完結できる「予約申込連絡システム」を構築し、10月から利用頻度の高い電波暗室において運用を開始した。これにより、利用者の利便性向上及び職員の業務負担軽減に寄与した。

（２） 評価に当たっての意見、指摘等

- 利用満足度が高水準で推移していることに加え、利用者アンケートの結果を踏まえた具体的な改善（「予約申込連絡システム」の構築等）につなげている点が評価でき、年度計画を順調に、かつ一部は上回って実施していると認められる。

3-1-2 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する 大項目（2）「技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進等」

（1） 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

脱炭素、ギガキャスト、全固体電池等、時代のニーズに対応した先進的分野・テーマに関するプロジェクト研究について、NEDO等の競争的研究費を獲得しつつ、戦略的に研究を推進した。また、数値目標である「競争的研究の実施件数」が目標値を上回ったことから「技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進」については年度計画どおり実施していると判断した。

さらに、大阪産業技術研究所が有する知見や技術ノウハウ等を活用した技術者研修や企業から研究員を受け入れて実施する共同研究等を通じて、人材育成及び企業への技術移転に積極的に取り組んだ。特に、「金属3D造形に関する技術者育成事業」を重点事業として位置付け、企業ニーズの高い最新の造形装置を活用したセミナーを実施したほか、数値目標である「人材育成延べ人数」が目標値を大幅に上回ったことから「産業を支える人材の育成」については、年度計画を大幅に上回って実施していると判断した。

以上、1項目は計画を大幅に上回り、他の1項目についても計画を順調に実施し、中期計画の達成に向けて着実に進捗していることから、大項目評価としてはA評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

2項目全てが小項目評価のV又はⅢに該当し、ⅢからVの項目の割合は2/2となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施している	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
技術支援のための研究 力・技術力の向上に資 する研究開発の推進 (6)	1	0	0	1	0	0
産業を支える人材の育 成(7)	1	1	0	0	0	0
合計	2	1	0	1	0	0

＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）又はⅤ（計画を大幅に上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

○ **産業を支える人材の育成（7）【Ⅴ】**

- ・企業ニーズに対応した研修として、オーダーメイド研修を17回（584名）、レディメイド研修を24回（150名）実施した。
- ・金属3D造形の要素技術に特化したセミナーとして、企業ニーズが最も多いレーザーパウダーベッドフュージョン方式で、高出力1kWレーザーを備えた最新の造形装置を活用した少人数制の体験セミナーを実施した（2月9日～10日、2月12日～13日の2回、計8名参加）。あわせて、3D造形技術イノベーションセンターのWebコンテンツを随時更新し、技術情報の発信強化に取り組んだ。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施している項目に加え、一部は大幅に上回る成果を上げており、全体として高く評価できる。
- 「BEV車体フレームギガキャストの高生産性を実現する高冷却・耐熱疲労金型を主ターゲットとする金属積層造形システムの研究開発」など、時代のニーズに対応した先進的分野・テーマについて、国家的プロジェクトに参画し、研究開発を推進している点を高く評価する。
- 日常の企業対応を通じてニーズを的確に把握し、時流に即した研修を企画・提供することにより、数値目標である「人材育成延べ人数」を大幅に上回って達成し、企業が求める技術者の育成に積極的に取り組んだ点を高く評価する。

3-1-3 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する 大項目（3）「顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援」

（1） 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

大阪・関西万博における「リボーンチャレンジ」事業として11者の中小企業・スタートアップの出展及び科学体験プログラムを実施し、大阪産業技術研究所の活動や製品化支援事例を来場者に向けて発信することにより、技術支援のプレゼンスを大きく向上させた。

また、Beyond5G開発支援やおおさかグリーンTECHコンソーシアム事業の推進、MOBIOイノベーションセンターの開設によるMOBIOとの連携強化など、府市施策及び支援機関との連携による取組を積極的に展開した。

さらに、万博出展を契機として創出された支援成果を含む製品化事例を「企業支援成果事例集」として発刊したほか、セミナーや学会発表に加え、新たにX（旧Twitter）の運用を開始するなど、多様な手法による積極的な情報発信を通じて、利用拡大及び新規顧客の開拓に取り組んだ。

一方、知財戦略の推進については、数値目標である「知的財産の出願・秘匿化件数」において中期目標の達成に向け遅れが見られるものの、企業の個別事情に応じた共同出願の推進や事業化が見込まれる研究成果の単独出願、単独保有特許に係るテクニカルシートや展示会等を通じた情報発信など、企業への技術移転に向けた取組を着実に実施した。

以上の取組を総合的に勘案し、大項目評価についてはA評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

1項目全てが小項目評価のⅣに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は1／1となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援（8）	1	0	1	0	0	0
合計	1	0	1	0	0	0

＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）又はⅤ（計画を大幅に上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

○ 顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援（８）【Ⅳ】

- ・大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンチャレンジ」において、11者の中小企業・スタートアップとともに『少し先の未来生活を支える「縁の下(E・N・NO・SHI・TA)」ものづくり企業たち』と題した出展（8月26日～9月1日）を実施し、約24万人の来場者に各社の技術・製品を紹介した。出展に当たっては、関係機関や出展企業等と連携して調整を行うとともに、動画・ポスター・チラシ・特設サイトの制作や独自キャラクターを活用した広報を展開した。さらに、8月29日には「リボーンステージ」において「わくわく！科学縁日」を開催し、4つのプログラムを通じて科学体験の機会を提供した。万博という前例のない舞台を最大限に活かした取組により、複数のメディアに取り上げられるなど、大阪産業技術研究所の活動及び出展企業の技術などを、かつてない規模で広く社会に発信した。
- ・Beyond 5G開発支援事業においては、前年度に引き続き5事業者に対し材料開発に関する技術支援を実施し、その成果を万博において発信した。また、第16回高機能素材Week・第14回高機能プラスチック展（11月12日～14日）に5事業者とともに出展し、情報発信及び技術情報の収集を行った。
- ・おおさかグリーンTECHコンソーシアム事業では、「バイオものづくり」をテーマとしたフォーラムを大阪産業局と共催し(2月27日)、大阪公立大学による支援事例や関連分野のスタートアップの紹介等を行った。また、次世代高速通信及び電池分野のワーキンググループを開催（各4回）し、企業間のネットワーク形成や情報交換を推進した。さらに、専門展示会に次世代高速通信ワーキンググループ参加企業22社とともに出展するなど、出展を通じて企業の技術や取組みを広く発信するとともに、参加企業の発掘や技術・市場動向の情報収集を行った。
- ・MOBIOイノベーションセンターの開設（令和7年7月）により、技術アドバイザーの派遣や相談対応（技術・産学連携相談20件）を行うなど、MOBIOとの一層の連携強化に取り組んだ。
- ・関西広域産業共創プラットフォーム事業における技術相談（かんさいラボサーチ経由69件）への対応及び同プラットフォーム連携会議(年度4回)への参画、他府県公設試験研究機関の見学・交流会（年度2回）への参加など、関西広域連合事業の推進に積極的に取り組んだ。
- ・「令和7年度（2025）企業支援成果事例集」を発刊（38件の成果事例を掲載）するとともに、万博特別号を発刊し、大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンチャレンジ」出展企業11者の成果事例を広く発信した。

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 大阪・関西万博における「リボーンチャレンジ」事業として、11者の中小企業・スタートアップの出展や科学体験プログラムを実施し、大阪産業技術研究所の活動や製品化支援事例を広く発信することにより、技術支援のプレゼンスを大きく向上させるなど、企業の事業化支援と利用拡大に向けて取り組んだ点を高く評価する。
- 企業への技術移転等を見据えて取り組む「知的財産の出願・秘匿化件数」については、中期目標期間における目標達成に向け、引き続き課題の分析等を行い、必要な措置の検討を進められたい。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「自主的・自律的な組織運営」については、総務・企画事務に関し、和泉・森之宮両センターの管理部門を廃止し、令和8年度当初から法人経営本部へ一元化する組織改正に向けた調整を行うなど、本部機能の一層の強化と管理部門の一元化・効率化を推進した。

「職員の確保と能力向上に向けた取組」については、応募・選考手続きのオンライン化による採用事務の一元化や募集開始時期の前倒しなどにより、効率的かつ積極的な採用活動を展開し、新規採用者を確保した。また、職員育成に向けた計画的な研修や海外大学への留学機会の提供など、人材育成にも着実に取り組んだ。

「情報システム化の推進」については、オンライン技術相談の実施や分析装置等のリモート操作が可能な装置の拡充といった支援業務のスマート化に継続して取り組み、利用者サービスの向上と業務効率の維持・向上を図った。

以上、1項目は計画を上回り、他の2項目についても中期計画の達成に向けて着実に進捗していることから、大項目評価についてはA評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

3項目全てが小項目評価のⅣ又はⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は3／3となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	I
		計画を大幅 に上回って 実施してい る	計画を上回 って実施し ている	計画を順調 に実施して いる	計画を十分 に実施でき ていない	計画を大幅 に下回って いる
自主的・自律的な組織 運営（9）	1	0	1	0	0	0
職員の確保と能力向上 に向けた取組（10）	1	0	0	1	0	0
情報システム化の推進 （11）	1	0	0	1	0	0
合計	3	0	1	2	0	0

＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）又はⅤ（計画を大幅に上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

○ **自主的・自律的な組織運営（９）【Ⅳ】**

- ・これまで構築してきた技術支援と研究とのバランスが取れた事業体制を維持し、高い水準で技術支援サービスを提供できる適切な組織運営を行った。
- ・令和７年４月１日に一本化した就業規則の施行にともない、関連する規程の法人内一本化を順次進めるとともに、採用事務や研修、人事評価制度など、両センターに共通する事務の一体的な執行を推進した。
- ・両センターの間接部門を令和７年度末で廃止し、令和８年度当初からこれらの事務執行を法人経営本部に一元化する組織改編調整を行い、本部マネジメント体制の強化に取り組んだ。
- ・支援業務サービスのワンストップ化に向けて、センター別だったWebからの技術相談問い合わせフォームを一元化するとともに、センターごとに分かれていた「初めてご利用の方へ」のページを一本化し、ホームページの利用案内を整備した。
- ・法人統一の支援業務利用約款を新たに制定し、令和７年５月に施行した。
- ・法人経営本部企画部広報・ITグループを中心として、広報活動を法人一体となって行った。Webサイトのローテーションバナーとメルマガの配信頻度、コンテンツを見直し改善するとともに、センター別に分かれていたメルマガの読者データベースの統合を３月に完了した。

（２） 評価に当たっての意見、指摘等

- 組織体制の見直し、人材の確保・育成及び情報システム化の推進について、いずれも計画どおり着実に取り組まれており、年度計画を順調に実施していると認められる。

3-3「財務内容の改善」及び

3-4「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「事業収入の確保」については、府内外の展示会への出展など新規顧客の開拓に積極的に取り組み、数値目標である「事業収入額」が目標値を上回るなど、着実に収入を確保した。また、「財務基盤の強化と予算の効率的執行」については、ニーズの高い先進電子材料評価センターの利用状況を精査し、利用ニーズの把握に努めるとともに、さらなる強化計画を策定するなどの取組を推進した。

「利用者の安全確保と職員の安全衛生管理の徹底」については、安全で快適な労働環境の整備に向けて取り組み、経済産業省より健康経営優良法人2026の認定を受けた。

「施設の計画的な保全と有効活用等」や「危機管理対策の推進・BCPの継続的改善」については、和泉センターの消火ポンプ設備や森之宮センターの受変電設備の改修を実施するとともに、BCPに基づく備蓄品の整備など、計画的かつ適切に取り組んだ。

「社会的責任の遂行のための取組」については、安全保障輸出管理やコンプライアンスに関する研修を実施するなど、情報セキュリティ対策及び内部統制の強化に努め、適切な法人運営を推進した。

以上、5項目すべてにおいて計画を順調に実施し、中期計画の達成に向けて着実に進捗していることから、大項目評価についてはA評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
事業収入の確保、財務基盤の強化と予算の効率的な執行（12）	1	0	0	1	0	0
施設の計画的な保全と有効活用等（13）	1	0	0	1	0	0
利用者の安全確保と職員の安全衛生管理の徹底（14）	1	0	0	1	0	0
危機管理対策の推進・BCPの継続的改善（15）	1	0	0	1	0	0
社会的責任の遂行のための取組（16）	1	0	0	1	0	0

合計	5	0	0	5	0	0
----	---	---	---	---	---	---

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 財務基盤の強化、安全管理及びコンプライアンスの対応等について、いずれも計画に基づき着実に実施されており、年度計画を順調に実施していると認められる。